

ドッジボールニュース

Vol 1

2014.03

このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。



西東京地域の新星、MMDC

(武蔵村山市立第二小学校ドッジボールクラブ)

ここ数年、ドッジボールが盛んな地域として注目を浴びている東京都武蔵村山市。本年1月25、26日に開催された「第11回少年少女ドッジボール大会」には、市内の小学校から75チーム(1,110人)が参加。今回は、2月11日、当地で開催された武蔵村山市交流会を訪ね、MMDC総監督の木月康二先生に、部活動としての取り組みについてお話を伺いました。

——ドッジボールの盛んな地域ですね。

武蔵村山市には小学校が9校あり、市内大会には毎年、数多くのチームが参加しています。中でも、東京都大会を目指して頑張っている4校では、部活動としてドッジボールをやっています。

——部活動になったきっかけは?

4年前のちょうど今ごろ、当時担当していた4年生チームが市内大会で優勝しました。これを観戦していた八王子の協会の方に「都大会を目指したら」と言われ、4年生だけで乗り込んだところ、あえなく3戦全敗。でも、それで終らなかった。子たちが1年間を通して練習したいと言ってきて、それならと部活動が始まりました。

——部員数は約50名、数年でこれほど活発になつた理由は?

子どもたちのやる気もさることながら、校長先生が正式な部活動として認めてくださったこと、協力してくれる先生が多かったことが大きい。現在、朝練は毎日、放課後は週3日・約1時間行っており、これを6人の先生で見ています。最初は公式ルールもあまり分かりませんでしたが、今ではわれわれも審判員の資格を取り、教えています。昨年は、MMDCガールズが東京都大会で準優勝、全国大会でベスト16に入りました。

——活動方針は?

ドッジボールの技術を学ぶことはもちろんですが、それが最優先ではなく、忍耐力や友達と協力することが中心。ドッジボール部として体育館を使わせてもらっていることもあり、挨拶や礼儀、掃除などは厳しくやっています。そうした「当たり前のことができない人は、ドッジボールはできません」と指導。今度、吉田先生(日本代表キャプテン・吉田隼也さん)に本校に来ていただき、1~3年生は体育の授業で、4年生以上はMMDCで教えてもらいます。私たち教員もどう指導すれば良いかアドバイスを受け



部活動を支える先生方。後列中央が木月康二先生



6年生が中心のMMDCメンバー。後列左から2人目が部長兼キャプテンの秋山幾哉君



3~5年生によるMMDCセカンドのメンバー

たいと思っています。まだ経験の浅いチームなので、学ぶことはたくさんあります。

あくまでも学校の部活動なので、クラブチームのように遠征に出ることは難しいものの、着実に実力を付けているMMDC。部活動を保護者の方々はどう思われているのか、3人の方に伺いました。皆さん、大会には必ず駆け付けるそうで、当日もトーナメント表を見ながら応援されていました。

「本当に楽しいようで、ドッジボールが全てという感じです」「毎日の朝練は、親としてはちょっと大変ですが、子どもはそんなに苦にしていないようです。寝坊しても『朝練!』と声をかけると、飛び起きます」「以前は結構のんきでしたが、ドッジボールを始めてからは集中できるようになり、ずいぶん変わったと思います」

最後に、MMDCの部長兼キャプテンの秋山幾哉君(6年生)に尋ねると、「やっと慣れて、みんなをまとめることができるようになりました。練習は大変じゃないけど、走るのが苦手。目標ですか? 全国大会に行けたらいいな」と、照れながら話してくれました。頑張れ、MMDC!

東京都武蔵村山市立第二小学校

東京都武蔵村山市三ツ木2-12-2。2012(平成24)年に開校50周年を迎えた。児童数約430名で、運動系の部活動は他に卓球、サッカー、バトミントンがある。

告知

本コーナーに登場してくれるドッジボールチームを募集しています。自薦・他薦を問いませんので、掲載を希望するチームは写真とPR文をJDBA事務局までお送りください。第2号は8月発行を予定。



熱いぞ!
ドッジボール

ドッジボール界の フロントランナーとして動く!

昨年12月14、15日の両日、日本・台湾・香港・韓国の4つの国と地域を代表した協会が参加し、東京の新宿コズミックセンターで「第1回ADCアジアカップ」が開催されました。今回は、日本代表キャプテンの吉田隼也さん(男子)と野沢羽純さん(女子)に、当日の試合を振り返りながら対談していただきました。

■国際試合開催の意義

吉田 アジアカップはどうでしたか?

野沢 想像していたより楽しかった。もっと敵対心むき出しなのかと思っていたら、意外とフレンドリーで。でも、こういう試合があるとモチベーションも上がるのです。良かったです。

吉田 僕らドッジボーラーは参加できる大会も限られていって、ちょっとマンネ

リ化していたように思います。だから、アジアカップのような大会は刺激になるし、本当にうれしい。もちろん、僕らだけではなく、今一生懸命やっている小学生のためにも素晴らしいことだと思う。

野沢 小学生のため?

吉田 小学生で日本一になるようなチームは厳しい練習を積み、みんなドッジボールが大好きになる。でも、その先に夢がないよね。小学校を卒業すると、他のスポーツにいつてしまう。今すぐは無理だとしても、日本代表が活躍できる環境をつくり、そこを頂点として目指せるよう、代表になるんだという夢を持てるようになればと思う。

野沢 そうですね。私たちがドッジボールを続いているのは、自分たちが楽しむためだけではなく、みんなの目標になる存在としての役割もあると思います。

■代表選手に求められるもの

吉田 日本代表の顔合わせが体育館であった時、いきなりボールを投げていた子がいたけど、野沢さんは体操をしたり準備をきちんとしていたよね。

野沢 そんなところを見ていたんですか?

吉田 さり気なく観察! 普段、どのようにドッジボールをやっているか分かるからね。きちんと準備する姿を子どもたちに見せるというか、常に見られているという意識を持つのも大事。プレーとは直接関係ないけれど、例えば、子どもたちが見ている前で、監督がいきなり清涼飲料水をガブ飲みするのは問題でしょう。僕は誰かに見られていることを意識し、メー



トップアスリート対談

ルやライン、フェイスブックの文章や言葉一つについても相当気を使って書いています。

野沢 すごい(笑)。私は、日本代表のユニフォームを着ているのも、ちょっとくすぐったい気がして……。

吉田 日本代表をどうやって育てていくか、今はそんな段階だから、自分たちが「代表」を強く意識することも必要じゃないかな。

野沢 確かに日本代表のユニフォームを着ると意識は変わります。仲良く楽しくやるのも大事だけど、代表は強くないといけない。去年のチームの方が強かったと言われないよう、毎年レベルを上げていかない。

吉田 今回、男子代表チームは、うまい人を上から順に選んだというわけではありません。もし、うまい順だったら僕自身はチームには入れない。チームをつくるには、チームに貢献してくれる人、若くて刺激を与えてくれる人、利き腕の違う人など、バランスを考えないといけない。ドッジボールにはポジションはないけど、そういう役割分担はあると思う。



中でき、とても助かりました。

■これからの夢

吉田 若い子たちがドッジボールを続けていける環境をつくれたらと思っています。そのため、僕らは先頭を切って走るフロントランナーに徹する!

野沢 女子は男子に比べると年齢層が狭いけれど、その中で盛り上げていきたい。

吉田 これからも、お互い頑張ろうね!

野沢 はい。よろしくお願いします。

対談をお願いした日は、首都圏に数十年ぶりに大雪が降った2月8日。野沢羽純さんのチーム「OVER DRIVE」が練習場として使用している松戸市の貝の花小学校体育館でお会いしましたが、周辺は歩くのも難しいほどの積雪。そんな状況にもかかわらず、東京から駆け付けてくれた吉田隼也さん、練習が中止になつても待っていてくださった野沢羽純さん、ありがとうございました。熱いハートを持つお二人の今後の活躍に期待しています。

厳しい練習風景に心が動く

ドッジボールを取り組む息子たちの成長をフェイスブックで紹介し、全国のドッジボーラー・ファンや関係者との交流を深めている伊藤伸明さん。現在は、次男の小学5年生の帝虎(たいが)君が、東京都足立区を拠点に活動するS・K・Yドッジボールクラブに所属。親子共に熱いドッジボールライフを送っています。「今、中学1年の長男が小学4年の時、同級生がドッジボールの全国大会で優勝したと聞き、S・K・Yの練習を見に行きました。当時、子どもには別のスポーツを3つやらせていましたが、最終的にドッジボール1本に絞りました。選んだ理由は、S・K・Yの女性監督の指導がとても厳しく、この人なら息子たちを預けられると思ったからです」

全てはドッジボールのために

保護者として、伊藤さんのドッジボールにかける想いは並大抵のものではありません。「全てはドッジボールのために」と言っても過言ではないでしょう。

長男の拳士朗(けんしろう)君は小学4年生、次男の帝虎君は小学2年生から始めましたが、途中入会のため、同世代の仲間よりも技術が劣っていました。少しでも早く追い付こうと、伊藤さんが2人の練習相手を務めることに。「朝練です。近くの公園で、毎朝やっていました。というか、今も続けています」。さらに驚くのは、週に一度、区の体育館を個人的に借りて練習していることです。「最近は幼稚園児の三男も連れて行きます。努力すれば上達するし、それを見ていると親としてもうれしい。スポーツ経験のない人でも練習相手になれるのがドッジボールの魅力です」

伊藤さんは、S・K・Yがもう一度全国制覇してほしいと願っていますが、同時にドッジボールをすることで子どもたちが成長したと実感しています。「気持ちが強くなり、活動的にもなった。今はドッジボールをやっていない長男も、弟の朝練に付き合ってくれます。そんな優しい気持ちを持つ子に育ったのもドッジボールのおかげです」。実は、伊藤さんにはまだ2歳の四男がいます。「やはりドッジボールを?」と尋ねると、「そうですね。あと10年、ドッジボールから離れられないかもしれません」。奥さんも熱心に応援する、素晴らしいドッジボールファミリーです。

ドッジサポーターのひろば

練習で結ぶ 親子の絆

伊
藤
伸
明
さん



体育馆練習する、
三男・覇丸(はるく)君、
次男・帝虎君、
長男・拳士朗君
(左より)

Supporter's Square

ドッジを 3倍楽しむ!

川
上
暁
生
さん



交流大会で審判を務める
川上暁生さん

ドッジボールの魅力にはまる

3年前、機会があって小学3年生の息子さんと、東京のクラブチーム「Vegaes源氏前」の練習を見学。「実際に見てビックリしました。子どもだけれど迫力もあるし、これは面白いと」。それもそのはず、「Vegaes源氏前」は強豪チームとしてドッジボールの世界では知られた存在。早速、息子さんは入団することに。

そして、父親である川上暁生さんもドッジボールの魅力に取り付かれ、保護者として試合を観戦するだけでは飽き足りなくなりました。「試合はわずか5分間、次の試合まで数十分も待たなくてはなりません。どうにも手持ち無沙汰で……」。審判になれば自分もコートに立てると思った川上さんは、日本ドッジボール協会の講習を受けC級審判員の資格を取得。熱い熱いドッジボールライフの幕開けです。

保護者、審判、そして選手として

保護者としての川上さんは、スポーツ好きなこともあって、息子さんの練習にも付き合うようになりました。近くの公園での朝練です。「応援するだけでも楽しいのですが、親子で思いっきり投げて受ける——、他のスポーツではなかなかできませんよ」

では、審判員としては、どう感じているのでしょうか。「簡単そうに見えて、奥の深いのが審判員。1セット5分ですが、かなり神経を使います。子どもたちが一生懸命に練習しているのを知っているので、私たちも必死にフェアなジャッジを目指します。審判は6名で行いますが、何よりもチームワークが大事。審判員としての面白さと言えば、主審ならゲームをうまくコントロールできた時でしょうか。良いゲームをつくるには、良いジャッジが欠かせませんから」

そんな川上さん、毎週日曜日には1選手として「Vegaes源氏前」の一般チームの練習に参加。「今は平気ですが、最初はボールを受けるのが怖くて、全部突き指しました。ただ、プレーしてこそ分かる楽しさ、すごさがあります。チーム一番の年長者は50代ですが、皆さん楽しんでますよ」

最後に、「皆さんも講習を受けて、審判の資格を取得してはいかがでしょう。ドッジがもっと面白になりますよ」。ドッジボールを3倍楽しむ川上さんならではのアドバイスです。

ミズノインドアシューズラインナップ

ゆったり足入れ 「軽量・クッション」モデル

ウェーブスターダム RX2 本体価格¥7,000+税

V1GA1450□□ サイズ:22.5~30.0cm
[ベトナム製]

運動量



09:ホワイト×ブラック/ゴールド 14:ホワイト×ネイビー/マゼンタ 62:ホワイト×レッド/ブラック

やわらかく、グラつきのない 軽量モデル

ウェーブスターダム JP3 本体価格¥5,400+税

9KV370□□ サイズ:19.0、20.0、21.0~24.5cm
[中国製]

運動量



64:ホワイト×ピンク/ブラック 62:ホワイト×レッド 09:ホワイト×ブラック/レッド

日本ドッジボール協会公認、 ドッジ専用シューズ

ドッジファイター IN 本体価格¥4,800+税

16KD200□□ サイズ:21.0~27.0cm
[中国製]

運動量



09:イエロー×ブラック 14:ホワイト×ネイビー 62:ブラック×レッド

弊社のホームページでご覧いただけますと、商品の詳細が掲載されています。

すべての商品がドッジボール専用ではございませんが、ドッジボールに最適なシューズとして提案させていただいております。

ミズノ ドッジボール

検索

ミズノ ドッジボール <http://www.mizuno.jp/dodgeball/>



JDBAインフォメーション 協会からのお知らせ

■ドッジボールのマンガが登場

4月4日発売の集英社発行『最強ジャンプ』5月号に「爆熱ドッジボーラーズ」というマンガが掲載されます。「がんばれ!ドッジファイターズ」以来のマンガとなりますが、JDBAではこれを応援。連載となるよう、皆さんも応援してくださいね!



©大場敦／集英社

■個人登録制度を導入

2014年度より「公認指導者制度」「一般競技者・中高生競技者制度」がスタートします。また、それぞれの立場の人たちがドッジボールに対する夢を共有するため、「公認審判員」に加え、「公認指導者」「一般競技者・中高生競技者」が一体となる「個人登録制度」を導入します。詳細は公式サイトをご覧ください。

■2014年度日本代表事業について

2013年12月、東京で開催された「第1回アジアカップドッジボール大会」。第2回は2014年9月ごろ、台湾での開催を予定しています。

【シニア(13歳以上)日本代表】(一般競技者・中高生競技者対象)

13歳以上の日本代表については、2014年度もセレクションを実施し、代表候補を選出します。その中から、第2回アジアカップに参戦する日本代表を編成します。会場やセレクション方法については、公式サイトをご覧ください。

【12歳以下(小学生)日本代表】(D-1/D-1Gチーム対象)

12歳以下の日本代表については、第2回アジアカップ大会に日本代表として出場を希望するチームを公募します。対象は、男子小学生で16名を上限に構成されるチーム、女子小学生で16名を上限に構成されるチーム、各1チームです。

なお、日本代表として出場するチームには交通費・大会参加費補助として10万円を支給。詳しくは公式サイトをご覧ください。

■ドッジボールニュースの「ネタ」募集します

今回、第1号となるJDBAドッジボールニュースを発行しましたが、2014年度以降、年2回の発行を予定しています。DB「ネタ」を募集しています。

D-1、D-1Gチームに限らず、全国にアピールしたい独自の取り組みや地元のスターなど、ドッジボールに関する情報をお待ちしています。情報をお持ちの方は、詳しい内容と連絡先をお書きのうえ、JDBA事務局までお送りください。

一般財団法人日本ドッジボール協会

<http://www.dodgeball.or.jp>

〒105-0004 東京都港区新橋6-4-3 ル・グラシエルBLDG.7-405

TEL.03-5776-1830 FAX.03-5776-1840



FOR ALL SPORTS OF JAPAN

このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。